

# たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校 横山文朗

## 心の安定根

ふるさとを愛する気持ちの基盤には、生まれ育った場所での自分を取りまく人たちとの忘れ難いあたたかい関係やつながりがあると書きました。人は父母の愛情を受けることにより、自分が大切にされているという思いをもちます。そして、周囲の人に対しても信頼感をもつようになります。そのことが心の土台になり、困難なことに出会っても、倒れても、立ち上がることのできる心の強さを身につけます。このような心の土台を心の安定根と言います。

人はくじけそうになった時にもうだめだと思った時に、自分をやさしく包んでくれた父母や地域の人や友だちや担任の先生のことを思います。ふるさとの景色を思い浮かべます。そうした思いが、自己の存在に自信を取り戻させ、困難に立ち向かうエネルギーを与えてくれます。また、太い心の安定根をもつ人は、周囲の人は自分に対して好意的に接してくれると無意識のうちに思っていますから、人を警戒することなく善意をもって関わろうとします。周囲もそんな人を自然と大切にようになります。心の安定根は、強さの素であり、やさしさの素でもあります。

心の安定根を育てる大切な時期は乳幼児期だと言われていますが、わたしは学齢期でも遅くはないと思います。父母の役割が大切ですが、学校や地域でも育むことはできると思います。それは、朝、登校する時に近所の人から「おはよう。車に気をつけるんで。」と声をかけられる。困ったときに学級の友だちが助けてくれる。休み時間には、大勢の友だちと仲よく遊べる。授業中に先生にわかりやすく勉強を教えてもらえる。生活科の時間に地域の人に昔遊びを教えてもらう。お飾りの作り方を教えてもらって友だちといっしょに作る。などなどごくあたりまえに子どもたちが日常行っていることです。

子どもたちは、見たこと感じたことを素直に表現しています。しかし、そのことの意味を意識していないことはよくあります。その意味づけをわたしたちがしてやることによって、子どもたちはそのことの意味を意識するようになります。わたしたちが、心の安定根を育む、ふるさと意識をもたせるという意図をもっているかどうかということが大きな意味をもっていると思います。

ですから、ことさらに新たなことを始める必要はないのです。今行っていること、何気なくさせていることを見つめ直し、心の安定根の太い人に育てたい。ふるさと意識を育てたいと念じ続ければよいのだと思います。柔軟で素直な心をもつ学齢期の子どもたちはわたしたちの願いにきつとこたえてくれると思います。